



現地2年目の冬

私は先遣隊の衛生隊員として往くハルピンとチハルとの中間のサルト（いまの大慶市）の入植地に、十一月三〇人の隊員と共に現地に入る。

ここは雪の大平原で見渡す限り何もない雪原であった。風がきつく土質は強度のアルカリ地帯で作物は作りにくく多くの有機質の厩肥を、施せばおいしい野菜が取れるという事であった。ここは第一次の隊員が入植し、徴兵等で人が少なくなり補充入植であった。この開拓地にも戦争の影は押し迫り、負けるとは知らずに早く兵役を終え、ここで頑張ろうと思いい軍隊に志願した。一九四五年二月徴兵検査を受け合格春めいた三月本隊も入植し、賑やかになり、種まきも始まる五月のはじめ召集令状が来る。五月十五日関先生の家で祝宴を受け、埼玉の戸谷修一朗君と防諜のために、隠密に国境の街、牡丹江液河の部隊に入隊し、再び大慶に帰る事はなかった。

春になれば草原は花盛りで、董・アヤメと草原は花は咲き乱れ、種まきも始まり農事に訓練に、三年は待ちどろしかつた。三年も残り少ない一九四四年十一月に、隊員が本隊入植地への先遣隊・軍属として部隊に、この三つに分かれることになる。

老人大身体験発表

「わが人生の泣き笑い」

神崎学園史学部 松田 八束



皆様元気を出して欲しい話したいと思います。

私は福崎新に生まれて三歳までそこにいました。四歳のときに川辺村小畑（今の市川町小畑）の天満神社に移り住みました。そこに高校卒業まで居り、その後、大阪に移り住み、今から五年前にこの新町に帰ってきました。故郷は福崎と小畑の山川です。スモッグに覆われた大都会の中でいつも美しい故郷を思い出していました。

私はこうして福崎を楽しんでいるという話をいたします。

一、早朝ローラースケート

私は定年一年半前からローラースケートを始めました。きっかけは、

膝のリハビリでした。机に向かってじっとしていてもシクシクと痛んでくる膝が何事もマイナス思考にさせるので、これを克服する方法を探していました。いろいろ試みましたが、例えばジョギングは疲労が膝にたまり、それが続けられないなど問題がありました。ローラースケートがリハビリに役立つのではないかと自分で思いつき、スポーツ店へ行ってローラースケートを求めました。ところがローラースケートはすでになく、新たにインラインスケートに変わっていました。これは困った、不安定そうなスケートを買っても飾っておくだけに終わるのではないかと…。当時は、舗装された道や石畳、コンクリートで固められた町並み、それから全ては私には冷たい・硬い・痛いイメージでした。しかしリハビリをやり遂げないことには…。私は一日ほんの一分ほどスケートを履いてみるだけでいいからと、家から自転車で一〇分ぐらい乗って、長居公園

に出かけることにしました。はじめは片足にスケートを着けて、もう一方にはスニーカーを履いてスケートに体重を預ける練習をしました。公園では土日にはかなり多くの人がスケートをやっていて、中には教えるのがうまい人も時々いました。そのおかげで、思ったより僅かの日にちで両足にスケートを履くことができました。

毎日、四時ごろに起きて長居公園に行き約一時間練習することになりました。通っているうちに、それまで描いていた外の景色は一変しました。夜空の星も美しく輝いていました。公園の隅から隅まで滑って自分の庭のように思いました。足の裏から伝わってくる振動が体の芯まで活性化させてくれるようでした。アスファルト・コンクリート・石畳・



レンガ畳それぞれの感触がわかることが新鮮でした。散歩している人々の会話も聞こえてきました。声をかけてくれる人の言葉も色々に変化してゆくのがわかってきました。また、韓国からきた青年が写真を撮らせてくれときて、大きなカメラで何枚も写してくれたこともありました。

この運動の影響は心身ともによい事がたくさんありました。膝が丈夫になり、足が元気になり、食欲も青年ぐらいに活発になり、いつも足がホカホカと温かくなつて、風邪をひかない、またひき始めてもすぐに治つてしまうことなどです。また、何事にも積極的になるというものです。このような運動を継続してゆくのに成功するには気長になること、高い目標を掲げて目標に向かって少しずつ一日千分の一度近づくとこのように気持ちを持ち持つてやることだと考えています。

定年になり、福崎に帰つてきてからも、雨の日以外は毎朝、河川敷公園のそばの道路の待避

線でスケートをやっています。

そのおかげで、道行く人々から挨拶を交わされ、また、よその土地からこられた方には道を尋ねられたりします。集団登校の小学生とも顔見知りになります。

今から四年ほど前、平成十八年十一月十二日、日曜日午前六時四十分ごろ、日課のスケートを終えて帰る支度を始めた頃、きれいな二重虹が現れました。見とれているとこれが三重虹になっていたのでした。二重虹の外の隣接する位置に三重目が色の順番を反転してかかっていたいました。私は四重虹を探しました。主軸虹の内側に色の順番を反転して見えていました。

このときほど福崎がすばらしい土地だと実感したことはありません。普通は、人里離れた高い山で見られない現象だと聞かされていたものですから。



二、里山歩き

私は幼いころから祖父や父に連れられて里山を歩いていたことをかすかに記憶しています。祖父たちと山

の峠を越えていくと、そこには美しいお花畑がぱっと広がっていて、すべてのお花が私たちの方に向かって「よくぞいらつしやいました」と全身をふって喜びを表しているのを見たのです。私はこのお花を守ってあげられる人になりたいと思いました。これが私の原体験です。小畑の天満神社に暮らしていた頃は、神社が里山の中になりましたから、毎日が里山歩きのようなものでした。この頃は、大風が吹く秋には椎の茂った木の枝から、ばらばらと椎の実が吹き落とされます。この落ちる音が、堪らないほどうれしく心を躍らせるものでした。寒い風の中、学生服のポケットを椎の実で膨らませ山を歩き回ることがよくありました。この気持ちは山で育つたものにはしかかわるまいと思っています。

私が故郷に帰ってきた時は、時間を作つて里山歩きを沢山したいと思つていました。が、今はなかなか忙しくて実現していません。それ以外にも理由があります。最近では近くの山に鹿やイノシシの数が増えて、農作物を荒らすのでシーズンには地元猟友会の人たちが駆除活動をされます。さらに、熊の出没の問題があります。

私たちが子どもの頃の里山のイメージが一変しています。もともと村人たちが山に入ることでできる生活文化を構築するが必要じゃないかと思っっています。帰ってきた頃の頃は、昔のイメージで行動しようとしませんでした。神崎山に誰でも気軽に登れるように道を作ろうと思っっています。最初数人のグループさえできれば、一番近くの山頂から鉄塔の向こうの尾根道を切り開いて奥の道が出来ます。そのためとっついていいかわかりませんが、去年の一月に檜の木で作った背負子に一〇Kgの砂袋を載せて合計十五Kgの荷を担いで、寒い時期には河川敷公園を歩いて足腰を鍛えています。こんなことをしているのは、子どもの頃里山で遊んでたくさん森の夢を描いていたからだと思っっています。

三、畑仕事

福崎に戻ってきて一番うれしかったことは、貸農園が近くにあり、牧歌的な田園風景の中に身を置ける幸せを実感した事です。ちょっと不幸なことに、マンスリー住宅が急にたくさん建って、その農園もなくなっってしまった。ところが、また近くで遊んでいる土地が私を待っ

ました。なんとという幸せ！きっと田園が幼いころ見たお花畑の花たちのように私を歓迎してくれているのだろうと錯覚しています。

四、男の料理

昨年、保健センターで開かれている男の料理教室「いろは教室」に通い始めて、今で十六回目ぐらいになります。そこでは私の年頃から八十歳を超えた方までが参加されています。なかなかいい教室です。「男子厨房に入らず」といって、台所に入っ

て料理するようでは出世できないというようなことを母はいつていましたから、自分の意識改革をするのが大変でした。しかし、同じくらいの年配の男性が料理するのを見るだけでも刺激になり励まされました。教室で習う料理には仕込みに手間暇がかかるので、これまで家では全く復習はできませんでしたが、最近どのメニューでも七回以上は挑戦しようかと思うようにまでなりました。スイートポテトケーキを作ったところがうまくいったので、両隣の住人の方たちに食べてみてくださいと持って行きました。すると、おいしいと言っていたので大喜びしまして、鶏ササ身のカレ

ークリーム煮に挑戦しました。これも食べていただき、おもしろかったとお世辞に違いないのですが言っただけ、自信を深めました。



五、3Cなしの生活・etc

自動車、クーラー、カラーテレビなしの生活をしていると大阪の人に最近知らせたら、信じられない！とびっくりされました。ま、確かに今年の夏はさすがに苦しい思いを初めて体験いたしました。大阪の人は、

そんな生活を見てみたいとおっしゃいましたので、福崎に来られるかも知れませんが。このクーラーのない生活にも条件があります。わが家は約百年前に建てられた純和風の建物です。先ずクーラーを取り付けるのが難しい。部屋には外気が入ってきます。夏にはコウモリが入ってきます。冬は戸外と変わらない寒さです。自動車なしの生活ができるのは、近くに、駅、スーパー、郵便局、役場、保健センター、病院、学校、文房具店、神社、お寺、公園、お墓など、すべてが歩いてゆける本当に恵まれた立地条件を満たしているからです。カラーテレビのない生活ができるのは、ラジオ好き、静か好き、新聞好き、活字好きなどを満たしているからだと思っいます。

以上、私の実践している元気の元についてのお話をさせていただきました。家族には何かとあれば、常に一日千分の一の心得と言っっておりま



す。参考になることがあれば幸いです。